

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2022.1.23-29**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

1:19 彼らは翌朝早く起きて、【主】の前で礼拝をし、ラマにある自分たちの家に帰って来た。エルカナは妻ハンナを知った。【主】は彼女を心に留められた。

1:20 年が改まって、ハンナは身ごもって男の子を産んだ。そして「私がこの子を【主】にお願いしたのだから」と言って、その名をサムエルと呼んだ。

1:21 夫のエルカナは、年ごとのいけにえを【主】に献げ、自分の誓願を果たすために、家族そろって上って行こうとした。

1:22 私がハンナは、夫に「この子が乳離れして、私がこの子を連れて行き、この子が【主】の御顔を拝して、いつまでもそこにとどまるようになるまでは」と言って、上って行かなかった。

1:23 夫のエルカナは彼女に言った。「あなたが良いと思うようにしなさい。この子が乳離れするまでとどまりなさい。ただ、【主】がそのおことばを実現してくださるように。」こうしてハンナはとどまって、その子が乳離れするまで乳を飲ませた。

1:24 その子が乳離れしたとき、彼女は子牛三頭、小麦粉一エパ、ぶどう酒の皮袋一つを携えてその子を伴って上り、シロにある【主】の家に連れて行った。その子はまだ幼かった。

1:25 彼らは子牛を屠り、その子をエリのとこに連れて行った。

1:26 ハンナは言った。「ああ、祭司様。あなたは生きておられます。祭司様。私はかつて、ここであなたのそばに立って、【主】に祈った女です。

1:27 この子のことを、私は祈ったのです。

【主】は私がお願いしたとおり、私の願いをかえしてくださいました。

1:28 それで私もまた、この子を【主】におゆだねいたします。この子は一生涯、【主】にゆだねられたものです。」こうして彼らはそこで【主】を礼拝した。

ハンナは主に祈って約束した通りにしました。それは主ご自身が、祈りに答えて真実にことを成し遂げてくださる方だからです。もしも主への約束を果たしていないことがあるなら、それは大きな損失になることでしょう。

また夫のエルカナも妻の信仰を尊重しました。「主のそのことばを実現してくださるように」というのが、夫としての本当のリーダーシップです。そのために家族の信仰を励ます必要があります。これはセルなどのグループにも言えることです。

また祭司エルは霊的には弱い人ではありませんが、ハンナは彼をその祭司職のゆえに、すなわち主が立てられたことのゆえに尊重しました。これもまた謙遜の表れであり、主がハンナを用いた理由の一つであると考えられます。人を見て評価するよりも、主の権威のゆえに、主の秩序を尊重しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 24日 火曜

### I サムエル



2:1 ハンナは祈った。「私の心は【主】にあって大いに喜び、私の角は【主】によって高く上がります。私の口は敵に向かって大きく開きます。私があなたの救いを喜ぶからです。

2:2 【主】のように聖なる方はいません。まことに、あなたのほかにはだれもいないのです。私たちの神のような岩はありません。

2:3 おごり高ぶって、多くのことを語ってはなりません。横柄なことは口にしてはなりません。まことに【主】は、すべてを知る神。そのみわざは測り知れません。

2:4 勇士が弓を砕かれ、弱い者が力を帯びます。

2:5 満ち足りていた者がパンのために雇われ、飢えていた者に、飢えることがなくなります。不妊の女が七人の子を産み、子たくさんの女が、打ちしおれてしまいます。

2:6 【主】は殺し、また生かします。よみに下し、また引き上げます。

2:7 【主】は貧しくし、また富ませ、低くし、また高くします。

2:8 主は、弱い者をちりから起こし、貧しい者をあきたから引き上げ、高貴な者とともに座らせ、彼らに栄光の座を継がせます。まことに、地の柱は【主】のもの。その上に主は世界を据えられました。

2:9 主は敬虔な者たちの足を守られます。しかし、悪者どもは、闇の中に滅び失せます。人は、自分の能力によっては勝てないからです。

2:10 【主】は、はむかう者を打ち砕き、その者に天から雷鳴を響かせられます。【主】は

地の果ての果てまでさばかれます。主が、ご自分の王に力を与え、主に油注がれた者の角を高く上げてくださいますように。」  
2:11 エルカナはラマにある自分の家に帰った。幼子は、祭司エリのもとで【主】に仕えていた。

主の御心によって子どもが与えられたハンナは夫エルカナとともに、祭司のもとで献児式をしました。そこでこの讃歌をささげて主をほめたええました。

角とは力を表します。私たちの力は主によって高められるものです。また口は勝利の宣言であり、それは相手を卑しめるためではなく、主にある喜びのゆえです。

このように神は岩のように堅固な土台ですから、この神に信頼すべきで、人間が「高ぶって、多くを語って」失敗することがないようにとハンナは歌っています。それほど主への信頼が強いのです。

ですから今が「勇士」でも、「弱者」でも、「飢えて」いても、「不妊」でも、主の主権のもとには、それらは決定的なことではありません。「主は殺し、…生かし…よみに下し、また「上げ…」「貧しくし、…富ませ…」るからです。主権は主にあります。主の決定がすべてです。

それは恐ろしいことではなく、「主は聖徒たちの足を守」ってください。真剣な祈りに答えていただいたハンナに倣って、主を信頼し続け、従い通してみましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 25日 水曜

### I サムエル

2:12 さて、エリの息子たちはよこしまな者たちで、【主】を知らなかった。

2:13 民に関わる祭司の定めについてもそうであった。だれかが、いけにえを献げていると、まだ肉を煮ている間に、祭司の子弟が三又の肉刺しを手にしてやって来て、

2:14 これを大鍋や、釜、大釜、鍋に突き入れ、肉刺しで取り上げたものをみな、祭司が自分のものとして取っていた。このようなことが、シロで、そこに来るイスラエルのすべての人に対してなされていた。

2:15 そのうえ、脂肪が焼かれる前に祭司の子弟がやって来て、いけにえを献げる人に「祭司に焼くための肉を渡しなさい。祭司は煮た肉をあなたから受け取らない。生の肉だけだ」と言うので、

2:16 人が「まず脂肪をすっかり焼いて、好きなだけお取りください」と言うと、祭司の子弟は、「いや、今渡すのだ。でなければ、私は力づくで取る」と言った。

2:17 このように、子弟たちの罪は、【主】の前で非常に大きかった。この人たちは【主】へのささげ物を侮ったのである。

2:18 さてサムエルは、亜麻布のエポデを身にまとった幼いしもべとして、【主】の前に仕えていた。

2:19 彼の母は彼のために小さな上着を作り、毎年、夫とともに年ごとのいけにえを献げに上って行くとき、それを持って行った。

2:20 エリは、エルカナとその妻を祝福して、「【主】にゆだねられた子の代わりとして、【主】が、この妻によって、あなたに子孫を与えてくださいますように」と言い、彼らは



自分の住まいに帰るのであった。

2:21 【主】はハンナを顧み、彼女は身ごもって、三人の息子と二人の娘を産んだ。少年サムエルは【主】のみもとで成長した。

エリの息子たちは信仰者の家に育ったにもかかわらず、「主を知らず、…祭司の定めについても」知りませんでした。もちろん神が主であることや、その存在に関する知識はあったでしょうが、彼らは神様がどういう方であるかという体験がなかったと言えるでしょう。また神は聖なる方で生きておられるという感覚が欠如していたのでしょう。また「定め」についても知らなかったとありますから、正しい必要な聖書知識がなかったのでしょう。

以上が彼らの身勝手な行動を生みました。次世代への信仰教育は偏差値や一般的な躰（しつけ）よりも優先されなければなりません。そうでないとその子が将来主からの祝福を受けられなくなってしまうからです。

一方、ハンナとエリカナは愛する一人息子であるサムエルを、信仰によって育てました。両親は主への誓いを忠実に果たし、寂しさを心配もあつたでしょうが、サムエルを祭司のもとに預けました。両親は主へのささげものと、息子への上着の差し入れを欠かさず、少年サムエルは両親の信仰と愛によって成長したのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 26日 木曜

### I サムエル



2:22 さて、エリはたいへん年をとっていたが、息子たちがイスラエル全体に行っていることの一部始終を、それに彼らが会見の天幕の入り口で仕えている女たちと寝ていることを聞いていた。

2:23 それでエリは彼らに言った。「なぜ、おまえたちはそんなことをするのか。私はこの民の皆から、おまえたちのした悪いことについて聞いているのだ。」

2:24 息子たちよ、そういうことをしてはいけない。私は【主】の民が言いふらしているうわさを聞くが、それは良いものではない。

2:25 人が人に対して罪を犯すなら、神がその仲裁をしてくださる。だが、【主】に対して人が罪を犯すなら、だれがその人のために仲裁に立つだろうか。」しかし、彼らは父の言うことを聞こうとしなかった。彼らを殺すことが【主】のみこころだったからである。

2:26 一方、少年サムエルは、【主】にも人にもいつくしまれ、ますます成長した。

2:27 神の人がエリのところに来て、彼に言った。「【主】はこう言われる。あなたの父の家がエジプトでファラオの家に属していたとき、わたしは彼らに自分を明らかに現したではないか。」

2:28 わたしは、イスラエルの全部族からその家を選んでわたしの祭司とし、わたしの祭壇に上って香をたき、わたしの前でエポデを着るようにした。こうして、イスラエルの子らの食物のささげ物をすべて、あなたの父の家に与えた。

2:29 なぜあなたがたは、わたしが命じたわたしへのいけにえ、わたしへのささげ物を、わ

たしの住まいで足蹴にするのか。なぜあなたは、わたしよりも自分の息子たちを重んじて、わたしの民イスラエルのすべてのささげ物のうちの、最上の部分で自分たちを肥やそうとするのか。

2:30 それゆえ——イスラエルの神、【主】のことは——あなたの家と、あなたの父の家は、永遠にわたしの前に歩むとわたしは確かに言ったものの、今や——【主】のことは——それは絶対にあり得ない。わたしを重んじる者をわたしは重んじ、わたしを蔑む者は軽んじられるからだ。

2:31 見よ、その時代が来る。そのとき、わたしはあなたの腕と、あなたの父の家の腕を切り落とす。あなたの家には年長者がいなくなる。

2:32 イスラエルが幸せにされるどんなときにも、あなたはわたしの住まいの衰退を見ようになる。あなたの家には、いつまでも、年長者がいない。

2:33 わたしは、あなたのために、わたしの祭壇から一人の人を断ち切らないでおく。そのことはあなたの目を衰えさせ、あなたのたましいをやつれさせる。あなたの家に生まれてくる者はみな、人の手によって死ぬ。

2:34 あなたの二人の息子、ホフニとピネハスの身に降りかかることが、あなたへのしるしである。二人とも同じ日に死ぬ。

2:35 わたしは、わたしの心と思いの中で事を行う忠実な祭司を、わたしのために起こし、彼のために確かな家を建てよう。彼は、わたしに油注がれた者の前をいつまでも歩む。

2:36 あなたの家の生き残った者はみな、銀

貨一枚とパン一つを求めて彼のところに来てひれ伏し、『どうか、祭司の務めの一つでも私にあてがって、パンを一切れ食べさせてください』と言う。」

主が「わたしよりも自分の息子たちを重んじて」と言われるように、エリは子ども可愛さのあまり、主を愛して従うようにという、神中心の子育てをしませんでした。それがイスラエル共同体の不幸と、家の不幸を招くこととなのです。

他方サムエルは主にささげられた子であり、主を第一とする親によって育てられました。子育てにおいても、主を第一にすることが、本当の意味で子を愛することなのです。それは全ての人間関係に言えることでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 27日 金曜

### I サムエル



3:1 さて、少年サムエルはエリのもとの【主】に仕えていた。そのころ、【主】のことばはまれにしかなく、幻も示されなかった。

3:2 その日、エリは自分のところで寝ていた。彼の目はかすんできて、見えなくなっていた。

3:3 神のともしびが消される前であり、サムエルは、神の箱が置かれている【主】の神殿で寝ていた。

3:4 【主】はサムエルを呼ばれた。彼は、「はい、ここにおります」と言って、

3:5 エリのところに行って行き、「はい、ここにおります。お呼びになりました」と言った。エリは「呼んでいない。帰って、寝なさい」と言った。それでサムエルは戻って寝た。

3:6 【主】はもう一度、サムエルを呼ばれた。サムエルは起きて、エリのところに行き、「はい、ここにおります。お呼びになりました」と言った。エリは「呼んでいない。わが子よ。帰って、寝なさい」と言った。

3:7 サムエルは、まだ【主】を知らなかった。まだ【主】のことばは彼に示されていなかった。

3:8 【主】は三度目にサムエルを呼ばれた。彼は起きて、エリのところに行き、「はい、ここにおります。お呼びになりました」と言った。エリは、【主】が少年を呼んでおられるということを悟った。

3:9 それで、エリはサムエルに言った。「行って、寝なさい。主がおまえを呼ばれたら、『【主】よ、お話しください。しもべは聞いております』と言いなさい。」サムエルは行って、自分のところで寝た。

3:10 【主】が来て、そばに立ち、これまでと同じように、「サムエル、サムエル」と呼ばれた。サムエルは「お話しください。しもべは聞いております」と言った。

3:11 【主】はサムエルに言われた。「見よ、わたしはイスラエルに一つのことをしようとしている。だれでもそれを聞く者は、両耳が鳴る。

3:12 その日わたしは、エリの家についてわたしが語ったことすべてを、初めから終わりまでエリに実行する。

3:13 わたしは、彼の家を永遠にさばくと彼に告げる。それは息子たちが自らにのろいを招くようなことをしているのを知りながら、思いとどまらせなかった咎のためだ。

3:14 だから、わたしはエリの家について誓う。エリの家のだ咎は、いけにえによっても、穀物のささげ物によっても、永遠に赦されることはない。」

「主のことばはまれにしかなく、幻も示されなかった。」とあります。時代は士師記の最後で、人々が自分勝手に生きていたのです。それでも主に従う者には、主のことばが与えられます。主のともし火は消えていませんでした。主のあわれみによります。

サムエルは主に従順に仕えていました。それは主の箱の安置されているところであって、主とともに歩んでいたのです。私たちもこうありたいものです。

エリは霊的には鈍っていましたが、それでも主への敬虔な思いは変わりありませんでした。サムエルは主が自分に与えてくださった指導者を尊敬していましたから、その指導者によって主の声を聞くことができました。主の定められた権威や役割を尊重することは恵です。

しかし主はエリの指導力のなさと、その結果を明らかに示されました。主への敬虔とともに、次世代を育てたり兄弟姉妹を正しく導くことは、信仰者として大切なことです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 28日 土曜

### I サムエル

3:15 サムエルは朝まで寝て、それから

【主】の家の扉を開けた。サムエルは、この黙示のことをエリに知らせるのを恐れた。

3:16 エリはサムエルを呼んで言った。「わが子サムエルよ。」サムエルは「はい、ここにおります」と言った。

3:17 エリは言った。「主がおまえに語られたことばは、何だったのか。私に隠さないでくれ。もし、主がおまえに語られたことばの一つでも私に隠すなら、神がおまえを幾重にも罰せられるように。」

3:18 サムエルは、すべてのことをエリに知らせて、何も隠さなかった。エリは言った。「その方は【主】だ。主が御目にかなうことをなさるように。」

3:19 サムエルは成長した。【主】は彼とともにおられ、彼のことばを一つも地に落とすことはなかった。

3:20 全イスラエルは、ダンからベエル・シェバに至るまで、サムエルが【主】の預言者として堅く立てられたことを知った。

3:21 【主】は再びシロで現れた。【主】はシロで【主】のことばによって、サムエルにご自分を現されたのである。

エリは霊的に鈍ってはいましたし、また息子たちを正しく育てることができないでいましたが、自分自身は主を恐れる者でした。「その方は主だ。主が御目にかなうことをなさいますように。」とは、潔いことばです。人間は主の全能の力ときよさの前には何も偽ることはできないのです。

エリがサムエルを怒ったり憎んだりしなかったことは評価されるべきでしょう。その態度はサムエルを正しく育てることにつながり、ひいてはイスラエ



ルに良い影響を与えたのです。たとえ自分には辛いことでも、主の判断を甘んじて受けることは信仰の姿勢です。(ただし、エリはもっと以前に、子育てにおいてそのような姿勢を持つべきでした。)

サムエルは預言者として認められましたが、それは自分で預言者となったのではなく、「主は彼とともにおられ、彼のことばを一つも地に落とされなかった。」からです。人が主の働き人になるのは、自分で決めるのではなく、主の召しと導きがあってこそです。

そのように人が、人生においての歩みや職業や立場とういものも、主によって与えられるのです。勝手に歩いてきてはいないか吟味する必要があります。またこれからは、主の御心を求めていきましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



4:1 サムエルのことばが全イスラエルに行き渡ったころ、イスラエルはペリシテ人に対する戦いのために出て行き、エベン・エゼルのあたりに陣を敷いた。一方、ペリシテ人はアフェクに陣を敷いた。

4:2 ペリシテ人はイスラエルを迎え撃つ陣備えをした。戦いが広がると、イスラエルはペリシテ人に打ち負かされ、約四千人が野の戦場で打ち殺された。

4:3 兵が陣営に戻って来たとき、イスラエルの長老たちは言った。「どうして【主】は、今日、ペリシテ人の前でわれわれを打たれたのだろう。シロから【主】の契約の箱をわれわれのところに持って来よう。そうすれば、その箱がわれわれの間に来て、われわれを敵の手から救うだろう。」

4:4 兵たちはシロに人を送り、そこから、ケルビムに座しておられる万軍の【主】の契約の箱を担いで来させた。そこに、神の契約の箱とともに、エリの二人の息子、ホフニとピネハスがいた。

4:5 【主】の契約の箱が陣営に来たとき、全イスラエルは大歓声をあげた。それで地はほどよめた。

4:6 ペリシテ人はその歓声を聞いて、「ヘブル人の陣営の、あの歓声は何だろう」と言った。そして【主】の箱が陣営に来たと知ったとき、

4:7 ペリシテ人は恐れて、「神が陣営に来た」と言った。そして言った。「ああ、困ったことだ。今までに、こんなことはなかった。

4:8 ああ、困ったことだ。だれがこの力ある神々の手から、われわれを救い出してくれる

だろうか。これは、荒野で、ありとあらゆる災害をもってエジプトを打った神々だ。  
4:9 さあ、ペリシテ人よ。奮い立て。男らしくふるまえ。そうでないと、ヘブル人がおまえたちに仕えたように、おまえたちがヘブル人に仕えるようになる。男らしくふるまって戦え。」

4:10 こうしてペリシテ人は戦った。イスラエルは打ち負かされ、それぞれ自分たちの天幕に逃げ、非常に大きな打撃となった。イスラエルの歩兵三万人が倒れた。

4:11 神の箱は奪われ、エリの二人の息子、ホフニとピネハスは死んだ。

イスラエルには主の箱がありました。すなわち主がおられ、主の御心がなり、その主はペリシテ人など簡単に打ち負かす全能の神です。それでイスラエルは喜びましたが、彼らが勘違いしていることがありました。それは神は自分たちの思い通りになる方ではないということです。

イスラエルは神のことばをないがしろにし、またホフニとピネハスは祭司の子どもでありながら、罪を犯し続けていたのです。主はご自身が主権を持っておられることを表すために、イスラエルの敗北を許されました。

主が人間の勝手な願いのために使えるような方でないことを知しましょう。主に勝利をいただくためには、主に従うことが先決であることを認め、そのように実行しましょう。従っていないことがあるなら、早くそれをしまししょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

